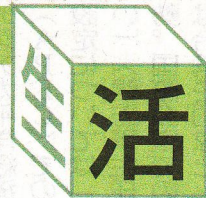


◎東京新聞



アルツハイマー

六十五歳以上の認知症患者は全国で約五百万人ともいわれ、今後、増える予想されます。アルツハイマー病の場合、さまざまな研究がなされていますが、関連する遺伝子は三十個ともいわれ、単一の原因では説明できないようです。

終末期のケアも必要に



冷たかないよう聴診器も温めてから

言葉は「はい」だけ。のみ込む力は残っていますが、食事に介助が必要です。ご家族からすれば、どのくらい介護が続くのだろうか、今後どんな経過をたどるのだろうかなど、不安がつります。

す。経過としては、物忘れ、認知機能の低下、行動・心理症状の出現などを経て、最終的には運動機能障害、特に歩行障害が出現します。米国の基準では、歩行障害があると終末期と考えます。当院では、寝たきりで、嚥下障害を起こす状態になると終末期と考えます。

ある患者さんは、誤嚥などによる肺炎で亡くなることになりました。当院の基準で終末期と考えられた患者の余命「生命予後」は約七カ月でした。これは海外の報告で、アルツハイマー病で胃ろうを造設した患者の予後七・五カ月とほぼ一致します。がんとは異なりますが、アルツハイマー病のような慢性疾患にも終末期のケアが必要になる時が来ます。

(川崎高津診療所院長)
|| 次回は三月十二日掲載